

HP 公開文

研究課題 「「当院における主膵管破綻症候群

(disconnected pancreatic duct syndrome : DPDS) に対する治療成績」

について研究協力をお願い

【目的】

主膵管破綻症候群 (disconnected pancreatic duct syndrome : DPDS) とは、主膵管が壊死により断裂し、腹腔、胸腔内あるいは後腹膜腔へ膵液が漏出する病態です。膵液が漏出することで血管や臓器が損傷し、出血や臓器不全を来し状態が重症化することも少なくありません。DPDS は急性膵炎の中でも重症に分類されることが多い壊死性膵炎のうち、46%に合併するとされています。DPDS は、急性膵炎診療ガイドライン 2021 で初めて独立した項目で取り扱われましたが、治療法が確立されておらず、臨床医の中でも未だ認知度が高くないことから、診断・治療が遅れることがあるのが現状です。今回、当院で診療した重症急性膵炎および DPDS の患者様の背景、診断方法、治療内容、治療成績について後方視的に検討を行うことで、今後同じご病気の患者様を治療する上で重要な情報になると考えております。それを目的とし、今回、我々は本研究を立案いたしました。

【対象】

2014年1月から2023年12月までに当院で診療した重症急性膵炎の患者様および、その中で DPDS を発症した患者様が対象となります。

【方法】

電子カルテ等の診療情報データよりデータを収集し、解析・検討します。

【研究期間】

[倫理委員会承認日]より2025年3月31日迄

【個人情報について】

当研究のデータ収集に際しては、個人が特定されないように匿名化した上で収集し、検討を行います。また、情報は院内において厳重に管理されます。学会などで研究の成果が発表される場においても、対象者様が特定されることはありません。本研究は、日常の一般診療として行われたものの観察研究であり、新たに痛みを伴うものではありません。また、研究は当院の倫理委員会の承認を得ております。当研究に関してご質問がある方や、対象となる方でご自身のデータが研究に利用されることを拒否される場合は、お手数ですが平日の9時から17時の間に下記医師までご連絡・ご相談頂きますようお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構京都医療センター

消化器内科 医師 芝田 くるみ

電話 (075) 641-9161 (代表)